

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施) (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	●「自立と社会参加」をめざし、小中高一貫した「学びの連続性」のある教育課程の編成と「わかる授業」実践を推進する。	○(1)小中高12年間及び家庭生活や地域生活を考慮した「学びの連続性」のある教育課程の編成をさらに推し進める。 ○(2)わかりやすく、生活に役立つ授業づくりを心がける。	◇(1)新指導要領改訂のポイントをふまえ、教育課程の再編成に計画的・段階的に取り組む。その際、3年間の研究から得た成果を反映できるようにする。 「ほどよう UD 授業ベータシク 11」の活用を推進する。 ◇(2)視覚教材の利活用により、児童生徒の理解の深化を図り、より主体的な学習活動につなげる。 学校の取組みを、さまざまな媒体や機会を通じて、保護者に周知を図る。	(1)「学びの連続性」を意識して授業の名称や内容の統一化等、具体的な教育課程改善に取り組むことができたか。 「ほどよう UD 授業ベータシク 11」について、各年次研修の研究授業等で、十分な活用がなされたか。 (2)視覚教材の利活用により、わかりやすい授業が展開され、さまざまな場面で児童生徒の主体的な取り組みがみられたか。また、その成果を保護者に周知することができたか。					
2 児童生徒 指導・支援	●児童生徒一人ひとりの実態及び教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	○児童生徒の実態や特性をふまえ、個別の計画に基づいた授業実践を通して、個々のニーズに応じた組織的な指導・支援を行う。	◇学部や学年で、客観的アセスメントの取組みの定着を図り、それをもとにして、アセスメントの視点を、個に応じたきめ細やかな支援のための見直しの契機としていく。	学部・学年で取り組んだ客観的アセスメントの視点を、個に応じた支援見直しの契機として活用することができたか。 また、その支援をチーム・組織として共有することができたか。					
3 進路指導・支援	●小中高それぞれのライフステージに沿った進路指導・支援を適切に行う。	○小学部・中学部・高等部の各学部段階で、地域や関係者機関との連携協働のもとに、学校卒業後の生活を想定した教育活動を展開していく。	◇①生活の場を含めた進路見学会や体験的活動を含む機会の設定など研修に工夫を加え、教員が学校卒業後の生活について理解をさらに深められるようにする。 ◇②学校全体で、校内研究の「学びの連続性」に係る成果と課題を絡めながら、12年間の学習内容の系統的整理に着手する。	①進路見学会や進路研修会について、全教職員が課題意識をもって、参加することができたか。 ②新学習指導要領の改訂ポイントをふまえた教育課程の再編成と関連を図りながら、学習内容の整理に取り組むことができたか。					
地域等との協働	●誰もが生活しやすい地域づくりを考える中で、地域との役割分担や協働について取り組みを進	○この地域にある特別支援学校として、その意味と役割をふまえ、共生社会の実現と成熟に向けた取り組み	◇様々な発行物やホームページによる情報の提供と発信、コミュニティスクールの活用や児童生徒による地域交流・地域貢献活動を通じて、地域の学校理解をさらに深め、共生社会づくりの足が	種々の発行物やホームページの更新により、必要な最新情報を随時提供することができたか。 児童生徒の自己表現を図りながら、交流・共同学習や地					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施) (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4		める。	を推進する。	りとする。	域貢献活動を積極的に推進することができたか。 開催時期や地域参加者のニーズを考慮しながら、パラスポーツを年間こわたり計画的に開催することができたか。					
5	学校管理 学校運営	●安心・安全な教育環境を整え、人権に配慮した教育活動を推進する。	○安心・安全な学校体制を構築し、児童生徒の人権尊重を最優先とした学校運営に努力する。	◇①児童生徒の障害特性・実態に応じた実効性ある防災教育を展開する。 ◇②種々の防災訓練や研修に取り組むことを通じて、「安全管理マニュアル」の内容についての共通理解を深め、より有益なものに改善していく。 ◇③SNS等を含めたいじめの未然防止を図るとともに、人権を大切にした授業づくりを推進する。 ◇④事故・不祥事について、年間を通じ注意喚起を図り、個々の教職員が高い意識を保持して行動していく。	①障害特性や実態に応じた実効性ある防災教育を展開できたか。 ②防災訓練や研修に取り組むことを通じて、「安全管理マニュアル」の内容についての共通理解を深め、より有益なものに改善し得たか。 ③いじめの未然防止を図り、人権を大切にした授業づくりを推進できたか。 ④事故・不祥事について、年間を通じ注意喚起を図り、個々の教職員が高い意識を保持して行動できたか。					